

## 令和8年度学力検査問題

# 国語

### 注意

- 1 監督者の開始の合図があるまで、この問題冊子を開かないでください。
- 2 問題は、1ページから10ページまであります。
- 3 解答は、全て解答用紙の所定の欄に記入してください。
- 4 解答用紙の※印の欄には、何も記入しないでください。
- 5 監督者の終了の合図で筆記用具を置き、解答面を下に向け、広げて机の上に置いてください。
- 6 解答用紙だけを提出し、問題冊子は持ち帰ってください。

(1)と(2)について答えなさい。

(1) 次の【文章】を読んで、後の各問に答えなさい。句読点等は字数として数えること。

【文章】

文章を読んで心が動くというのとはどのようなプロセスなのでしょう。感情が強く生起する場合と、そうでもない場合があるのはなぜなのでしょう。このカギは物語の世界への「移入」にあるようです。移入とは、物語の世界をまるで現実の世界であるかのように感じ、物語の中での出来事に集中する経験のことです。移入状態になったとき、読み手の心は大きく動くのだと考えられます。

物語の読解についてさまざまな研究をしたゲリグは、①物語に移入するプロセスを「旅」の比喻で表現しています。読み手は旅人であり、もともといた世界から少し離れたところに旅に出ます。旅に出ると、もとの世界にいつもどおりアクセスすることはできません。そして旅人は、どこかしら変化した状態でもとの世界に帰ってきます。

これは読み手の移入を大変うまく表している比喻だと言えます。読み手は物語の世界に入り込むと、物語の中の状況を鮮やかに「目に見える」ように感じ、その分、現実世界での出来事に注意がむかなくなります。この状態を示す例としては、時間の感覚が分からなくなつて周囲で起きていることに気が付かなくなることが知られています。夢中で読んでいたらあつという間に日が暮れていた、とか、友人に呼ばれているのに気が付かなかったという経験がある人もいるのではないのでしょうか。「もとの世界にいつも通りアクセスすることができない」というわけです。

もとの世界にいつも通りアクセスすることができない、というのは、表象を構築する段階にも影響してきます。移入しているときにも文章の表象を構築しようとする点は共通なのですが、状況モデルを構築するときに現実世界の知識が参照されにくくなるのです。そのため、現実世界では矛盾するような出来事が起こつても②それを矛盾ととらえずに表象を構築していくことができます。ファンタジー小説を読んでいるときに、「いや人が生き返ることはないよね」と急に冷めたりせず、「生き返つたんだ、よかつた!」と思えるのは、移入によつて現実世界の知識との整合性を保とうとしないで済むからです。X、なんだか入り込むことができないなど感じる際には、現実世界の知識との矛盾が気になるはず。「展開が非現実的でちつとも面白くない!」と感じる物語もあります。これはその物語には自分が移入できないということの表れでもあるのです。

③小説を読むのが好きだという人は、頻繁に移入を経験しているのではないかと思えます。移入という現象は、物語やフィクションに限定されるわけではありません。ですが、典型的には移入は物語を読んだときに生じる現象だと言えます。これはおそらく、説明文の多くが現実世界を理解することを目的として書かれるのに対して、物語が現実から離れた別の世界を記述しているということによるものでしょう。自分が小説を夢中になつて読んでいるとき、文章の中の世界は単に「そこに書かれた情報」ではなく、自分自身を取り巻く世界を構成しているように感じられます。読解は、書かれた情報を頭の中で再現して表象を作ることだ、とお話ししましたが、ゲリグが「旅」になぞらえて説明したように、移入は、その再現された表象の世界に自分を投影し、旅をさせることなのです。

もう一つのカギは④同一化です。同一化は、物語の登場人物をまるで自分のように感じることで、これも物語によつて心が動かされる大きな要因となります。登場人物にどこか自分に通じるところがあると思つたり、「分かるなあ」と感じたりすることで、物語の世界の旅人として自分を位置づけられるのだと考えることができるでしょう。同じ物語展開であつたとしても、年齢や境

遇など、自分と似ているところが多い登場人物が出てくるときのほうが、物語によって心を動かされやすくなることは知られていますが、これは同一化による影響だと考えられます。自分と全く似ていない登場人物（例えば「未来世界の天才科学者」のような人物を想像してみましょう）であっても、その人が友人関係に悩んでいたたりするようなエピソードを見ると、同一化が促進されてより心が動かされやすくなります。推理小説などで天才的な探偵（シャーロック・ホームズ）には同一化しにくいけれど、周辺の登場人物（ジョン・ワトソンや依頼人）に同一化できるといような場合もありますね。

移入と同一化はそれぞれ異なる概念ですが、物語の世界に入り込んだ状態になっているときは、移入状態で同一化していることが多くなります。私達が強く心を促されるときには、このような物語の世界に入り込んだ状態になることが重要な役割を果たしているのです。

（犬塚美輪『読めば分かるは当たり前？ 読解力の認知心理学』による。一部改変）

（注）プロセス：過程。

ゲリグ：アメリカの認知科学者。

アクセスする：接続する。

表象：情報やものを頭の中に再現した像（イメージ）。

状況モデル：文章から読み取った情報と自分の持つ知識を統合して頭の中に再現した像（イメージ）。

ファンタジー小説：空想的なテーマを扱った小説。

フィクション：創作。小説。

シャーロック・ホームズ、ジョン・ワトソン：小説の登場人物。

問一 本文中の **X** に入る語句として最も適当なものを、次の1～4から一つ選び、番号を書きなさい。

- 1 いわば
- 2 それとも
- 3 逆に
- 4 では

問二 本文中に ①物語に移入するプロセスを「旅」の比喻で表現しています。とあるが、この「旅」の比喻において「物語の世界」に当たる部分を、本文中から十八字で探し、初めの四字を抜き出して書きなさい。

問三 次の **イ** の中は、本文中の ②それを矛盾ととらえず。とはどういうことかをまとめたものである。ア、イに入る内容を本文中から探し、アは十七字で、イは三字で、それぞれそのまま抜き出して書きなさい。

読み手が物語に移入して状況モデルを構築するとき、アので、現実世界では矛盾するような出来事が起こっても、現実世界の知識とのイを意識しないということ。

問四 本文中に ③小説とあるが、書き手がこの段落で「小説」の話題を示した意図を説明したものととして最も適当なものを、次の1～4から一つ選び、番号を書きなさい。

- 1 文章の種類による性質の違いを説明し、移入の後に生じる問題点を明らかにするため。
- 2 文章に書かれた情報を正確に読み取れば、必然的に移入が生じることを示すため。
- 3 移入が生じる上で、文章による現実世界の理解が欠かせないことを強調するため。
- 4 移入が生じやすい文章の種類を示し、移入にどのような特徴があるかを説明するため。

問五 次の **ア** の中は、本文中の ④同一化とはどういうことかをまとめたものである。アに入る内容を、十字以上、十五字以内で考えて書きなさい。

物語の読み手が、アを見いだしたり、登場人物に共感したりすることで、登場人物をまるで自分のように感じること。

【資料】

## 物語の魅力についてのアンケート

私が読んだ本の中に、文章を読んで感情が強く①生起する場合と、そうでない場合があるということが述べられていました。

物語を読んだときには「空想の世界が面白い。」と感ずることもあれば「実際にはあり得ない展開だ。」と感ずることもあります。それがなぜなのか、もっと知りたいと考えています。

そこで、みなさんの印象に残っている作品や物語の魅力について調査し、その結果を分析してレポートにまとめたいと思います。

ご協力をお願いします。

- 1 あなたがこれまでに国語の授業で読んだ物語の中で、印象に残っている作品を教えてください。

- 2 あなたが考える物語の魅力を、次の中から一つ選んでください。

- (ア) 新しい発見があること  
(イ) 想像力や表現力が②豊かになること   
(ウ) 物語の展開が面白いこと  
(エ) 物語の世界の③余韻に浸れること  
(オ) ④楽しく時間を過ごせること  
(カ) その他 (自由記述)

(2) 佐藤さんは(1)の【文章】の内容に興味をもち、物語の魅力についてレポートにまとめることにした。次の【資料】は、佐藤さんがレポートで活用するために作った、アンケートの下書きの一部である。これを読んで、後の各問に答えなさい。

問一 【資料】に 実際にはあり得ない とあるが、この内容と同じ意味を表す語句を、(1)の【文章】から漢字四字で探し、そのまま抜き出して書きなさい。

問二 次の1～4の――線を施した部分に適切な漢字を当てるとき、【資料】の ①生起 の「起」と同じ漢字を用いるものを1～4から一つ選び、番号を書きなさい。

- 1 意き投合する。
- 2 実力を発きする。
- 3 人生の転きが訪れる。
- 4 注意を喚きする。

問三 【資料】に ②豊かになる とあるが、「なる」という部分の意味と、次の1～4の――線を施した部分の意味が同じものを一つ選び、番号を書きなさい。

- 1 委員会は五人の委員からなる。
- 2 桜が美しい季節になる。
- 3 友達のアドバイスが参考になる。
- 4 先生がお話しになる。

問四 【資料】の ③余韻 の漢字の読みを、平仮名で書きなさい。

問五 【資料】の ④楽しく と同じ品詞、かつ同じ活用形の単語を、【資料】の中から探し、そのまま抜き出して書きなさい。

問六 次の□の中の文字は、佐藤さんが行書の学習を生かして毛筆で書いた文字である。Aの部分に表れている「点画の省略」という行書の特徴と同じ特徴が表れている漢字を、次の1～4から一つ選び、番号を書きなさい。



1 観  
2 雷  
3 先  
4 迫

次の文章を読んで、後の各問に答えなさい。句読点等は字数として数えること。

【ここまでのあらすじ】暖平はこの春、大学に進学し、父の文彦が写真館を営む実家を離れて一人暮らしを始めた。写真館が撮影を依頼されている二つの小学校の運動会が重なり、父だけでは対応できないため、母の桃子から撮影を手伝うよう、暖平に連絡があった。暖平は気が乗らないながらも半年ぶりに帰省した。運動会当日、小学校へ行くと、暖平の担任だった山下先生に声をかけられた。

「今日は天気もいいし、暑くなりそうだから、写真撮影は大変な重労働になると思うけど頼むな」

暖平は肩を叩かれた。

山下先生の言葉がおどしではなく、大変な一日になりそうだというのは、児童たちが入場してくる開会式と、その流れで行われたラジオ体操を終えた時点で感じた。

澄み切った秋晴れで運動会には最高の一日だが、重い一眼レフを二つ両肩からたすきがけにして、児童たちを追いかけ回しながら撮影する暖平にとっては地獄のような苦しみだった。

子どもたちは種目を終えるとテントの下に戻るのに、少しは楽なのだろうが、暖平は出突っ張りになる。

小さく折り畳まれたプログラムを開いては種目を確認し、またポケットにしまうということを何度繰り返ししたことだろう。プログラムは暖平の汗と土埃であつという間にシナシナになって、折り目から破れてしまっている。

午前中のプログラムが半分終わる頃には、シャツもズボンも汗で濡れ切っていて、半袖のシャツの先から出ている腕は、日焼けで赤くなり熱を帯びている。

「①こりやばいな」

一つ種目を終えるたび、あと半分、あと四分の一でお昼、あと三つ、とカウントダウンして、自分を鼓舞する必要があったが、ようやく迎えたお昼の時間も、暖平にとっては休憩時間ではなかった。食事会場となっている体育館に行つて、家族でお弁当を食べている様子を撮影しなければならぬのだ。

やってみて驚いたのは、子どもの側から暖平の方に寄ってくることだった。

「②ねえ、いつものおっちゃんじゃないの？」

と何人もの小学生に聞かれた。文彦は子どもたちの間でやはり人気があるらしい。

「いつものおっちゃんじゃないんだよ、今日は」

暖平がそう言うと、別にながかりするわけではないが、

「ふうん」

とその場に立つたまま、何かを待っている様子の子がほとんどだった。文彦なら何かしらで盛り上げてくれるのだろう。

暖平はどうしていいかわからず、

「じゃあ、写真撮ろっか！」

と声をかけるくらいしかできなかった。

もう一つ驚いたことは、どの種目についても、どこからどんな写真撮ろうというプランが自分の中にちゃんとあったことだった。

「これはあそこの位置から、こう狙った方がいいな」

a そう感じる**と** b **すぐに**走つてそのポイントに移る。

そこで思ったような画が撮れなければ、すぐに移動して、思い通りの構図を探すのだが、大体どこに移動すればいいのかわかるのだ。

それはかつて自分が撮ってもらつて嬉しかった写真の構図だということに暖平は気づいている。

小学校だけじゃない、中学、高校とイベントのたびに父親がそこにいるのは、嫌で仕方がなかったが、c その仕事の仕方、つまりカメラマンとしての父の動きは見ていないよう**で**これまで **d** **ずっと**見てきたのだ。

シャツターを切り続ける暖平は、

「この写真は喜ぶだろうなあ」

と思うと徐々に嬉しくなり、低いアングルから狙うためにグラウンドに腰を下ろしたりしているうちに、汗で濡れた洋服にグラウンドの土がついて、気づけば真つ黒**になつて**いた。

運動会が終わつて家に戻ったときには、腕も顔も首筋も日焼けで真つ赤**になつて**いた。

「疲れたでしょ。お疲れ様」

と桃子に言われたが、「いや、別に」と暖平は答えた。

本当は疲れ切っていたが、先に家に帰って撮ってきた写真の選別をしている文彦が、何事もないような顔をしているのを見て、疲れたと言ったら負けのような気がしたからだ。

ただ、父親がやってきた仕事を初めてやってみて、こんな大変なことをいつもやってきているんだということがわかったことは、暖平の心に少なからず変化をもたらした。

自分や姉を育てるために、この重労働を「当たり前前」のように日々こなし続けてきたのだ。

(注) 一眼レフ…カメラの種類の一つ。

たすきがけ…ななめがけ。

出突っ張り…同じ人が、ある期間出っづけけること。

アングル…カメラでものを写す角度。

ショット…カメラに収めた写真のこと。

もちろん今も自分が大学に行くためにその当たり前前を続けてくれている。

「ありがとう」

という言葉を使うのは照れ臭く、とてもそんなことを言い合える親子関係ではない。

暖平は二台のカメラを差し出して、

「俺なりに、頑張っているいいショットを撮ってきたつもりだけど、あまり売れなかったらごめん」と言いながら渡した。

(喜多川泰『おあとがよろしいようで』による。一部改変)

問一 本文中の〓線を施したa～dのうち、他と品詞が異なるものを一つ選び、記号を書きなさい。

問二 次の〓の中は、本文中の①こりゃやばいな と言ったときの暖平の心情について述べたものである。アに入る内容を、十五字以上、二十字以内で考えて書きなさい。

予想以上に重労働だった写真撮影がこの後も続くことを考えると、自分一人でアを感じている。

問三 本文中に②ねえ、いつものおつちゃんじゃないの? とあるが、この言葉があることによる効果として最も適当なものを、次の1～4から一つ選び、番号を書きなさい。

- 1 子どもたちが、今日は慣れ親しんだカメラマンがいらないことに気づき、落胆したことを印象付ける効果。
- 2 暖平が、子どもたちの素直な言動によって写真を撮る自信を失い、悲しみを感ずることを暗示する効果。
- 3 文彦が、親しみのあるカメラマンとして、子どもたちに受け入れられていることを印象付ける効果。
- 4 暖平が、文彦と比較されたことで、いい写真を撮ろうと奮起するきっかけになったことを示す効果。

問四 次の〓の中は、本文中から読み取れる暖平の心情の変化についてまとめたものである。A、Bに入る内容を本文中から探し、Aは七字で、Bは二字で、それぞれそのまま抜き出して書きなさい。また、Cに入る内容を、二十字以上、二十五字以内で考えて書きなさい。

「気づけば真つ黒になつていた」という表現から、納得のいく写真を撮ろうとAを探して撮影するうちに、写真を見る人のB姿を想像して嬉しくなり、徐々に撮影に没頭していったことがわかる。実際に撮影を体験して父親の仕事の大変さがわかり、プロのカメラマンとしての姿に尊敬の念を抱いている。また、素直に言葉にできないながらも、C気持ちを感じている。

三

次は、『韓非子』という書物にある話【A】と、その現代語訳【B】である。これらを読んで、後の各問に答えなさい。句読点等は字数として数えること。

【A】

工人、数数業を変ずれば、則ち其の功を失ひ、作者数数揺徙すれば、則ち其の功を亡ふ。一人の作、日に半日を亡はば、十日なれば則ち五人の功を亡はん。万人の作、日に半日を亡はば、十日なれば則ち【I】の功を亡はん。然らば則ち数数業を変ずる者は、其の人弥弥おほくして、其の欠弥弥大ならん。凡そ法令更まれば利害易はり、利害易はれば民の務め変ず。務めの変ずるを之業を変ずと謂ふ。故に理を以て之を觀れば、大衆を使ひて数数之を揺かせば【II】、大器を蔵して数数之を徙せば則ち敗傷多く、小鮮を煮て数数之を撓せば則ち其の沢を賊なひ、大国を治めて数数法を変ずれば則ち民は之を苦しむ。是を以て有道の君は静を貴び、法を変ずるを重んぜず。故に曰はく、大国を治むる者は、小鮮を煮るがごとしと。

【B】

職人がたびたび仕事を変えたとその成果はあがらず、耕作者もたびたび移動するとその仕事はだめになる。一人の作業で一日に半日分がだめになれば、十日たつと五人分の仕事が増になる。一万人の作業で一日に半日分がだめになれば、十日たつと【I】分の仕事が増になる。そうだとすると、たびたび仕事を変えるというのは、その人数が多ければ多いほど、その損失がいよいよ大きいのである。およそ法令が変更されると利害は変わってくるが、利害が変わると民衆の務めることも変わってくる。務めることが変わるのが、つまり仕事を変えるところである。そこで道理から考えると、多くの人を使つてたびたび仕事を変えたのでは成果は少なく、立派な器物を所蔵してそれをたびたび移動したのでは破損のおそれが多く、小魚を煮てたびたびかきまわしたのではその美しさがそこなわれ、大国を治めてたびたび法を改めたのでは民衆が苦しむことになる。それゆえ、道をわきまえた君主は静かにすることを尊んで、法を改めることは重んじない。そこで、老子は「大国を治めるのは、小魚を煮るようにせよ」と言うのである。

(注)道…人として行うべき正しい道。

老子…中国古代の思想家。

問一 【A】のおほくして を、現代仮名遣いに直し、全て平仮名で書きなさい。

問二 次の1～4の——線を施した部分について、【A】の理 と同じ意味で用いられているものを、1～4から一つ選び、番号を書きなさい。

- 1 合理      2 管理      3 整理      4 理髪

問三 【A】、【B】のIに入る語句として最も適当なものを、次の1～4から一つ選び、番号を書きなさい。

- 1 五十人      2 五百人      3 五千人      4 五万人

問四 【A】のIIには、次の漢文の書き下し文が入る。漢文を書き下し文に直して書きなさい。

則チ少ナク成一功一

問五 次の□の中は、【A】と【B】を読んだ木村さんと上田さんと先生が、会話をしている場面である。

木村さん 【A】の最後にある老子の言葉「大国を治むる者は、小鮮を煮るがごとし」とは、どのようなことを言っているのでしょうか。書き手はまず、仕事を何度も変える人が多ければ多いほど、□アということ述べ、その上で、法令の話をしていますね。

上田さん 法令が変わると、利害が変わるため、民衆は仕事を変えということが述べられています。

先生 そうですね。では、それらを踏まえると、立派な器物を移動する話と小魚を煮る話は、老子の言葉とどのようなつながりがあるのでしょうか。

上田さん 立派な器物が破損しないようにするには、何度も移動しないことが大事であり、小魚の美しさを損なわないように煮るには、何度もかきまわさないことが大事だと示されています。【A】には、「何度も」の意味を表す「イ」という語句が多く使われていますね。

木村さん なるほど。これらの話から老子の言葉の意味を考えると、「大国を治める者は、法を□ウほうがよい」と捉えることができますね。

先生 そのとおりです。二人とも、【A】の内容について深く理解することができましたね。

- (1) □アに入る内容を、五字以上、十字以内でまとめて書きなさい。  
(2) □イに入る語句を、【A】から漢字二字で探し、そのまま抜き出して書きなさい。  
(3) □ウに入る内容を、五字以上、十字以内で考えて書きなさい。

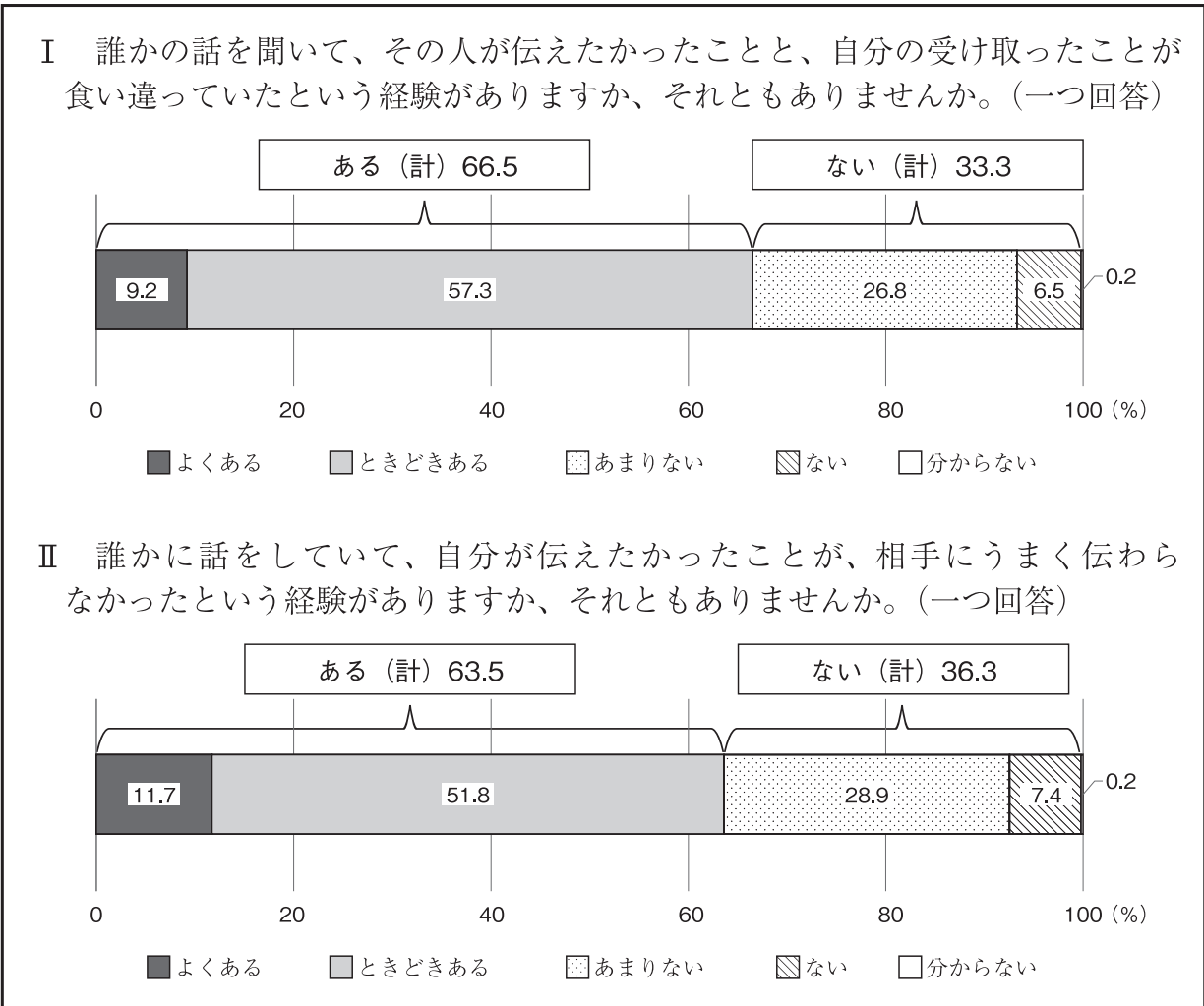
四

古田さんの学級では、次の【資料1】と【資料2】を基に、言葉を用いたコミュニケーションについて考えを述べることに  
 なった。あなたならどのような考えを述べるか。これらを読んで、後の条件1から条件5に従い、作文しなさい。

【資料1】 言葉を用いたコミュニケーションにおいて誤解が生じた事例

Aさんは、好きなスポーツチームの試合のチケットが取れたので、「今度の日曜日に試合があるけれど、一緒にどうですか。」と、Bさんを誘いました。  
 Bさんは、予定があったので断ろうとしましたが、はっきり断るとAさんに悪い気がしたので、「大丈夫です。」と答えました。  
 試合の前日、Aさんは日曜日の集合時間についてBさんに連絡しました。  
 Bさんは、Aさんからの連絡に戸惑いました。

【資料2】 言葉を用いたコミュニケーションにおける誤解の経験について  
 (アンケート結果)



(資料2は、文化審議会国語分科会「分かり合うための言語コミュニケーション (報告)」(平成30年3月)を基に作成)

条件1 文章は二段落構成とし、十行以上、十二行以内で書くこと。

条件2 第一段落には、【資料1】の事例において、誤解が生じないようにするにはどうすればよかったか、Aさん、Bさんのいずれか、または両者の改善点を挙げ、その理由を書くこと。

条件3 第二段落には、第一段落を踏まえ、言葉を用いたコミュニケーションをよりよくしていく上であなたが大切だと考えることを、【資料2】のI、IIのいずれか、または両方の内容に関連付けて書くこと。なお、選んだ項目はI、IIの記号で示すこと。

条件4 題名と氏名は書かず、原稿用紙の正しい使い方に従って書くこと。

条件5 グラフ等の数値を原稿用紙に書く場合は、左の例にならうこと。

例

3	・	5	%
---	---	---	---

23	・	6	%
----	---	---	---